

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101447		
法人名	医療法人 清和会		
事業所名	グループホーム かがやき		
所在地	徳島市上八万町中山83番地の1		
自己評価作成日	平成24年8月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの健康状態を把握し、適切な受診やリハビリテーションのための通院等を支援することにより、健康な状態を維持することができるよう支援している。職員は、積極的にレクリエーションを実施したり、個別の援助を行ったりして利用者とのコミュニケーションを密に図っており、良い関係を構築している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市街地から離れた場所に位置しており、周囲を緑と川に囲まれた自然豊かな環境にある。事業所は、協力医療機関と密に連携を図って利用者の健康管理に取り組んでおり、利用者や家族の安心に繋がっている。利用者は、毎朝、玄関でラジオ体操を行っており、新鮮な空気を感じつつ健康管理に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を掲げている。プラン検討や行事企画の際、実践の方法について職員間で話し合っている。	事業所独自の理念を掲げ、リビングに掲示している。全職員が地域密着型サービスの意義を大切に考え、利用者一人ひとりの生活習慣や馴染みの関係を重視したケアの統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	宅宮神社のお祭り、しらさぎ台の文化祭に作品を出展、上八万地区の運動会で一緒に競技したり、近所のスーパーへ買い物に出かけ交流している。	地元のお祭りや地域の文化祭へ作品を出品している。また、地域の運動会等へ参加し、積極的に地域住民と交流を図っている。利用者が地域の一員として暮らし続けることができるよう支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して民生委員の方、ボランティアの方と話し合いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日々の業務の状況や取り組みについて報告し感想や意見を頂いています。	2か月に1回、運営推進会議を開催するよう取り組んでいる。利用者や家族の代表、民政委員、地域包括支援センター職員、職員等の出席を得ている。出された意見や要望について職員間で検討し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	届出書類、加算要件確認等分からない点は随時職員に連絡し教えてもらったり、保護課職員に定期的に入居者の様子を伝え連携を深めている。	職員は、定期的に市担当窓口へ出向いて、事業所の実状や課題等を伝えている。市担当者と情報交換や相談を行ってアドバイスをもらうなどし、つねに連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル、資料を整備し職員に周知している。また原則身体拘束は行っていない。施錠については家族の理解を得ているが、状況に合わせて開放し自由に出入りできるように工夫している。	事業所の立地条件等から安全面に留意し、家族の了解を得たうえで施錠を行っている。しかし、状況によって解放時間を設けるなどの工夫を行い、自由に出入りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで防止法の理解を深め、虐待行為の防止に努めている。虐待の自覚がないことの危険性についても常に話題にするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内のバックアップ体制は整っており、その必要のある利用者については法人の顧問弁護士と相談行い、いつでも活用できる体制がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明手順があり手順に沿って十分に説明行い、契約解除の際にも家族や本人と話し合い理解、納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会、運営推進会議の際に意見、要望を聞いたり、議事録を全家族に送付し意見や結果を見てもらっている。日常的にも利用者、家族の意見を伺い対応している。	家族会や面会の機会を利用し、積極的にコミュニケーションを図っている。出された意見について全職員で話しあい、具体的なサービスに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回開催法人主任会で部署の意見をまとめて発表したり、勉強会、ミーティングの時以外にも日常的に職員の意見、提案を受け、反映させている。	月2回、法人の会議に事業所の責任者や管理者が出席し、職員の意見やアイデアを発表している。職員から出された意見や提案について検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者も頻繁に現場に来て職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し、資格取得に向け支援し、資格の評価も行い、能力にあった定期昇給もしている毎月21日には勤務状況の報告行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、ホーム内研修は月に各1回行われるので順番に参加してもらい、研修報告書は全員が閲覧できるようになっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加時に交流を図ったり、法人内各部署との交流でサービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には面談し本人の言葉を聞くようにしている。家族が安心出来るよう話を聞き説明を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、本人が何に困っていて、何を求めているかを聞き事業所に出来るサービスを説明し信頼をえる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居適切かを見極め、法人内の担当者と相談し家族に伝える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互いが協働しながら和やかな生活出来る様に役割の分担(掃除、ゴミ捨て、洗濯干し)や声かけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	意向や本人への対応の相談している。本人の気持ちをくんで頂き面会に多くきってもらったり、外出(外食、美容院等)に出てもらったり穏やかな生活に協力してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出の支援や友人が訪ねてきた時にはゆっくり話が出来るよう配慮(お茶を出したり、自室にイスを用意)している。	職員は、利用者がこれまで培った人間関係や社会との繋がりを大切に考え、本人の希望する法事や墓参りなどの外出を支援している。また、馴染みの知人などの来訪時には、気兼ねなく話ができるよう配慮するなど、継続的な交流ができるよう積極的に働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別にゆっくり話を聞いたり、月1回茶話会を開催したり、毎日午前と午後にレクリエーションの場をもうけ交流を図ったりトラブルの仲裁をしたり関係が円滑になるよう働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退去となった本人、家族ともに不安は大きいのでお見舞いに行き話を聞き心のケアに努めているまた退院後の相談にも応じている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で言葉や表情等から汲み取り把握に努め、また家族からの情報も得るようにしている。	職員は、日ごろから利用者とのコミュニケーションを大切に捉え、思いや意向の把握に努めている。一人ひとりの言葉や表情、行動等に留意するとともに、家族や関係者からも情報を得て職員間で共有し、思いの実現に向けた支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に聞き取りで得た情報以外にも生活の場面ごとに個々の感じ方、対処の仕方を理解することに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや出来ること出来ないこと、毎日の状態を把握している。月1回のミーティングで話題にし他の職員と共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時、担当者会議に参加してもらった際に意見を聞き、本人には日常生活の中で自然に意見を聞き職員全員で意見交換行い計画を作成している。	毎月カンファレンスを開催し、利用者や家族の希望、悩みなどについて職員会議で検討している。利用者一人ひとりの視点に立ち、必要な支援を盛り込んだ介護計画書を作成している。月末にはモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や職員の気づきは個々のケア記録や申し送りノートに記載し職員は情報を共有し記録を元に見直し、評価を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出、通院には柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、ボランティア団体との協同、消防署、銀行等との連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の病院と医療連携を図り本人、家族の希望を大切に受診援助を行い、他病院受診についても柔軟に対応している。	協力医療機関が主治医となっており、連携を図っている。利用者や家族の希望にそって、他医療機関の受診も支援している。家族に受診や通院介助の方法、情報の伝達方法等の相談を行って支援に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携病院との連絡は随時行い健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。毎日夕方には法人の病院の当直看護師へ状態報告を行い夜間の状態変化時の対応に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを渡したり、見舞いに行ったり電話で関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを率先して行ってはいないが本人、家族、関係者と十分に話し合いを行う体制である。	重度化した場合や終末期のあり方について、家族の意向を踏まえたうえで、事業所の対応を話しあっている。身体状態の変化に応じ、家族や関係者間で話しあい、方針の共有化を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを整備し、周知徹底を図っている、勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難マニュアルを整備し、年2回春と秋に利用者と共に避難訓練を行っている。隣接施設との連携訓練も同時に行っている。運営推進会にて訓練の見学、参加を民生委員、ボランティアの方、家族に勧めている。	年2回、消防署の指導のもと、避難訓練を実施している。隣接の事業所との合同訓練も行っており協力体制を築いている。なるべく利用者が訓練へ参加することができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を理解し丁寧な言葉かけを心がけている。特に名前を呼ぶ際には必ず苗字で呼ぶ事を徹底している。	日ごろから、職員は本人の思いを大切に捉えて支援しており、利用者を苗字で呼ぶようになっている。利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応については、職員間で話しあって共通認識を深め、穏やかな優しいケアを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めたことを押し付けるのではなく複数の選択肢を提案し、気持ちの変わりやすい方にはそのつど確認し自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	協同生活上必要な一日の流れを見やすい表にしてリビングに貼りだしてあり利用者が合わせやすいよう説明し、促すがその都度様子を観察し、無理強いはしない。字の読めない方にはそのつど言葉で解りやすく説明して、本人に決定してもらうよう促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のセンスを大切に身だしなみの手伝いをする。美容師に直接説明出来ない人は代わりに職員が代弁するなどのお手伝いも行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備や片づけを利用者と共に行い皆で同じテーブルにつき楽しく食事が出来るよう配慮している。	母体法人の管理栄養士が食事の献立を作成している。事業所内で利用者の好みや味つけに配慮し調理している。年数回、外食を楽しむ機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事を把握し、食事が進まないときは嗜好品を加えたり、おかゆおにぎりと形を変えたり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し毎食後ケアの準備をし個々の力に応じたお手伝いをしている。夕食後には義歯の洗浄のお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、さりげない誘導、声かけにてトイレでの排泄を促している。	利用者一人ひとりの排泄チェックシートを作成してパターンを把握し、一人ひとりの習慣に応じたさりげない誘導に努め、トイレで気持ちよく排泄できるよう支援している。また、夜間にもトイレ誘導を行い、排泄の自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動(体操・散歩)や個々に合った飲み物の工夫で水分摂取してもらい自然排便できるよう取り組んでいるが、それでも改善されない場合は主治医への相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	共同生活上希望(時間、順番)に添えないときもあるが、その都度説明し理解を得て、後日その利用者の希望を優先するなどの配慮をしている。	利用者一人ひとりと相談し、なるべく希望に応じて入浴を楽しんでもらえるよう支援している。本人の希望に添えなかった場合には、次の機会に優先して入ってもらおうなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。前夜の睡眠状況を把握し休息をとって貰ったり、夜間不眠の顕著な方には家族や医師にこまめに相談し対応を検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のファイルに薬の説明書を整備し受診記録をつけ職員間で情報を共有している。服薬チェックを行い身体状況に変化あれば医療機関の看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの得意分野で一人ひとりに合った役割を持って頂き、実施後には感謝の言葉を忘れないようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や気分に応じて天気の良い時に散歩や日光浴に出かけたりドライブや買い物を企画している。家族も参加したり家族水入らずで出かけたりしている。	買い物や散歩、地域の行事等へなるべく参加するように努めている。また、家族の協力を得て、利用者一人ひとりの希望にそった外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ない方は常時お金を持つことはしないが支払いのときは職員がお金を渡しレジでの動作スムーズに出来るよう付き添い支えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には本人より家族に電話してもらっている。プライバシーに配慮しながら個別に支援している。。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾り付けを利用者と一緒に行い、共に空間を作ることで自分の住まいだという意識を高めてもらっている。	共用空間は広くて明るい。畳の間があり、家庭的な雰囲気のあるゆったりとした空間となっている。利用者は、職員とともに作業をしたり、思い思いに過ごしたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングに配した椅子、ソファで仲の良い方と楽しく語り合ったり、うたた寝したりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品、家具、写真を持ち込んでもらったり、ホーム内で自作した作品や必要な物の購入の手伝いをし、安心出来る部屋作りを手伝っている。	利用者は、居室に思い思いの調度品を持ち込んでおり、その人らしい居室となっている。職員は、利用者一人ひとりの個性や能力を大切に捉え、落ち着いて過ごすことができるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに解りやすく張り紙したり、解りにくいところに目印をつけたり、動線に障害物が無いよう注意したり環境整備に努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングに理念を掲示し、プラン立案の際にはどんな形で実践できるかを話し合っている。	リビングの目のつきやすい箇所に掲示し、レクや行事で実践した事が楽しく感じられているか振り返り検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の文化祭や運動会に参加し交流を図っている。	日々の散歩や、スーパーでの買い物、地域の文化祭や運動会参加を通して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方と話し合いを行っている。	運営推進会議を通して地域の方と話し合いを行っている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーが些細な事でも話しやすい雰囲気を作り、小さな意見の中にもヒントを得るようにしている。経過報告も忘れない。	取り組み状況や報告は本音で語り少しでも多く意見を引き出せるよう司会進行に気を配っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	届出書類、加算要件確認等分からない点は随時職員に連絡し教えてもらったり、保護課職員に定期的に入居者の様子を伝え連携を深めている。	届出書類、加算要件確認等分からない点は随時職員に連絡し教えてもらったり、保護課職員に定期的に入居者の様子を伝え連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員ではないが出入り口の鍵は入居者様が自分で開け出入りできるようにしている。	安全について考えながら基準も理解している。全員ではないが出入り口の鍵は入居者様が自分で開け出入りできるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで防止法の理解や虐待防止に努めている。言葉使いもこまめに注意、指導している。	勉強会、マニュアルや資料を利用し周知徹底に努め、職員間での話し合いの機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でのバックアップ体制は整っており、対応できるよう職員間でも話題にしている。	その必要のある利用者については関係者と具体的に話し合う機会をもち、法人の顧問弁護士と相談しいつでも活用できる体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	資料をまとめ丁寧に説明を行い、契約時には時間を取り、納得して頂き、同意を得るようにしている。	契約時の説明手順を規したものがあり、手順に沿って十分に説明を行い、理解を得ている。説明に時間を要することを事前に伝えている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には面会時に意見、要望を伺い、出た意見はリーダー会等で検討している。	運営推進会議で、家族・利用者の意見を聞き、面会時にも職員から話しかけ言葉を引き出す努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回開催法人主任会で部署の意見をまとめて発表したり、勉強会、ミーティングの時以外にも日常的に職員の意見、提案を受け、反映させている。	月2回開催法人主任会で部署の意見をまとめて発表したり、勉強会、ミーティングの時以外にも日常的に職員の意見、提案を受け、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	責任者も頻繁に現場に来て職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し、資格取得にむけて支援し資格の評価を行い、能力に見合った定期昇給も行っている。	責任者も頻繁に現場に来て職員の業務や状況の変化を把握している。本人の意向を重視し、資格取得にむけて支援し資格の評価を行い、能力に見合った定期昇給も行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には順番に参加してもらい、研修報告書や資料は全職員が閲覧できるようにしているそして研修情報も随時発信している。	法人内、ホーム内研修は月に各1回行われるので順番に参加してもらい、研修報告書は全員が閲覧できるようになっている。研修情報も随時発信している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加時に個々で交流を図ったり、他施設実習にて他施設と交流を図っている。	おもに法人内各部署との交流でサービスの質の向上に役立っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人、家族と面談を行い心身状態や本人の思いと向き合いそれぞれの不安を理解できるよう努めている。	日常生活の中で、常に傾聴の態度で接するよう取り組んでいる。日々の会話や行動から要望を把握し、安心の確保を心がけている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経験やご苦労をしっかり聞き受け止めどのように対応していくかよく話し合い信頼関係が作れるよう努力している。	面会が気軽にできる雰囲気作りに努めている。電話での連絡伝達をこまめに行うことで信頼関係の構築を心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時状況を確認し改善に向けた支援を提案し、必要なサービスにつなげるようにしている。	本人、家族と面談行い情報収集検討をかさね居室や他施設とも連携し、対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であるという考えを職員は共有し、本人の思いを知ること努め、和やかに生活出来るよう配慮している。	なにげない日常の会話を大切にし個々の能力を生かせるよう支援し、共感しあえる信頼関係の構築に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の情報の共有に努め、共に支援してゆく関係を築いている 運営推進会議への参加を呼びかけ、協力しあえる関係の構築に努めている。	家族に定期的に日常生活の報告を実施している。運営推進会議への参加を呼びかけ、協力しあえる関係の構築に努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力してもらい馴染みの美容院へ行ってもらっている。	面会が気軽にできる雰囲気づくりに努めている。入居者様との関係等を把握し、墓参り等急な外出にも柔軟に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションや行事など、みんなで楽しく過ごす時間や気の合う仲間同士で過ごせる場所を作れるよう職員が調整役となり支援している。	個々の能力、性格、生活履歴を把握し、共に支えあいながら生活できるよう努めている。交流の場をもうけ馴染みの関係が作れるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居になった場合などはお見舞に行き会話や不安などの相談を聞いて、不安の軽減になるよう努めている。	特に入院による退居となった方の不安は大きいので、お見舞に行きお話し、心のケアに努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、言葉や表情等から汲み取り、把握に努めまた、家族からの情報も得るようにしている。	一人ひとりから直接希望や要望を伺い、ケアプランを作成している。全職員への周知に努めている。言葉にならない雰囲気にも気を配る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から聞き取りをし入居後も折に触れ家族から話を聞いている。	家族も交えて生活歴や暮らし方を伺うが、すべてを語りたくない気持ちにも配慮している。日々の会話の中で得た情報を生活歴に書き加えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、できないことよりできることに注目し、その人全体の把握に努めている。	一人ひとりの日々の過ごし方を記録し、生活歴等と照らし合わせて現状の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時等で、本人には日常生活の中で意見を聞き、アセスメントをし職員全体での意見交換、カンファレンスを行い介護計画を製作している。	本人、家族の希望や要望を基に、全職員で意見を出し合い、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、排泄等身体状況及び利用者の状態や職員の気づきは個々のケア記録に記載し職員間の情報共有に徹底している。また個別記録を元に計画の見直し評価を実施している。	専用のファイルに個別記録を記載し、職員間で情報を共有して介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族の状況や希望を基に、職員間で意見を出し合い、柔軟に対応できるよう心がけている。	入居者様、家族の状況や希望を基に、職員間で意見を出し合い、柔軟に対応できるよう心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターやボランティア団体との協同、消防や銀行等との連携を行っている。	地域包括支援センターやボランティア団体との協同、消防や銀行等との連携を行っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を聞き、提携病院以外の受診についても家族と相談し柔軟に対応している。	本人、家族の意向を聞き、提携病院以外の受診についても家族との相談し柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携病院との連絡は随時行い健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。毎日夕方には法人の病院の当直看護師へ状態報告行い夜間の状態変化時の対応に備えている。	連携病院との連絡は随時行い健康管理や状態変化に応じた支援が行えるようにしている。毎日夕方には法人の病院の当直看護師へ状態報告行い夜間の状態変化時の対応に備えている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報交換行い、家族とも回復状況など情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。	入退院時は、病院との情報交換、共有を密に行っている。お見舞に行くことで、安心の確保に努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族と話し合い臨機応変に対応を検討している 担当医にも相談し指示をもらう。	必要時には家族や関係者と十分な話し合いの時間をとれるよう体制を整えている。又家族会などでもその点知らせている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを整備し周知徹底を図っている。	マニュアルを整備し、周知徹底をはかっている。随時、医療機関へ連絡し、指示を受ける事ができる。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難マニュアルを整備し、年2回春と秋に利用者と共に避難訓練を行っている。隣接施設との連携訓練も同時に行っている。運営推進会にて訓練の見学、参加を民生委員、ボランティアの方、家族に勧めている。	避難マニュアルを整備し、年2回春と秋に利用者と共に避難訓練を行っている。隣接施設との連携訓練も同時に行っている。運営推進会にて訓練の見学、参加を民生委員、ボランティアの方、家族に勧めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2	ユニット 3	
			実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの際に、職員の意識向上を図り利用者の誇りやプライバシーを損ねないように対応している。	プライバシーを守り、人格を尊重した言葉遣いや対応を心がけている。不適切な対応にはその都度注意し、指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めたことを押し付けることはせず、利用者に合わせた声掛けをし複数の選択肢を提案して、自分で決められるような場面を作っている。また意思表示時の困難な方には表情で読み取るよう勤めている。	思いや希望を表現できる雰囲気作りに努め、気持ちの変わりやすい片にはその都度確認し、自己決定を尊重している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの体調や気持ちを尊重し柔軟に対応している。	希望に応じた支援を心がけ、気分転換や趣味活動を支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本は本人に任せているが自分で出来ない人には着る服を持ち物の中から見て、選んでもらっている。	服装の乱れをさりげなく直し、本人のセンスを受け入れ、個性を賞賛し気持ちを引き立てよう支援している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意向で準備、食事は職員と一緒にには行っていないが、畑で農作業を一緒にやり、収穫した野菜を取り入れ楽しんでいく。	出来る所は職員と共に食材の下準備をし、配膳や片づけを行っている。昼食は入居者様と職員が同じテーブルで一緒に食事を摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量をチェックし職員は情報を共有し、水分補給も随時行っている。	好みに応じこまめに水分を摂取してもらうよう努めている。管理栄養士の作成する栄養バランスの取れた食事を提供し、能力に応じて副食等を刻む等工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員は理解しており、自力では不十分な方には声かけ、介助を行い就寝前には義歯の洗浄を行っている。	毎食後、口腔ケアを行い、能力に応じた支援をしている。毎晩、就寝前は義歯の洗浄を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、体調の変化に注意して必要時にはリハビリパンツ等使用できるよう準備している。	排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけで促している。能力に応じ、トイレ誘導時におむつ交換や清拭を行い、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体操や散歩等で体を動かし、食事や水分に気をつかい自然な排便ができるよう取り組んでいる。	十分な水分の摂取や食事や毎日の体操に配慮し、便秘予防に取り組んでいる。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が一方的に決めず、本人の希望に合わせた入浴を支援している。入浴拒否する方には職員が同行し安心できるよう対応している。	入浴を嫌がる方へは言葉かけや時間、職員を変えたり様々なアプローチで工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣やリズムを大切に、体調の変化も把握し休息していただけるうにし、夜間巡視時寝つけない方には声かけし対応している。	一人ひとりの生活習慣に応じた支援を行っている。夜間不眠の方には、日中の過ごし方や適度な休息に配慮している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や薬の説明書を個人別に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。服用時は本人に手渡しきちんと服用できていることを確認している。	一人ひとりの服用薬を時間帯別に整理し、服薬の支援、確認を行っている。変化があった場合には、協立病院への受診や相談を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分の好きな仕事を役割として行って頂いている。趣味や買い物などの支援を行い、嗜好品も各自、部屋で管理している。	希望や生活歴を参考に、能力に応じた役割ができるよう支援している。趣味や散歩、定期的な買い物等、気分転換がはかれるよう取り組んでいる。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時散歩や日光浴を楽しんでもらい、ドライブや買い物を企画し楽しんでもらっている。	希望に沿った散歩や買い物の支援を行っている。ご家族の協力も得て外食やドライブ等を計画し実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	ユニット 3 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理することで得られる満足感を大切にしてお小遣いを渡したり、管理できない方でも支払いのとき一緒に行ったりしている。	お金を持つ大切さは個々に違いがあり希望や能力に応じた支援を行い、好みの物を購入できるよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設外の公衆電話を利用したり、希望に応じて電話や手紙の取次ぎを支援している 他 の利用者への配慮も行う。	希望に沿って電話や手紙のやり取りができるよう家族の協力を得ており、能力に応じて支援している。携帯電話を所持し、ご家族と自由に連絡を取り合う方もいる。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器を洗う音、料理をしている匂い、季節感のある献立、居室には馴染みの家具を置きリビングの飾り付けを一緒にし自宅と違う意識を高めてもらう工夫をしている。	入居者様と職員が協力してフロアの飾りつけ等を作成している。壁に飾り季節感を採り入れるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やリビングに椅子やソファを配置し一人で過ごしたり、仲の良い者同士話をしたり、くつろげるスペースを確保している。	気の合った入居者様同士が楽しく過ごせるよう、リビングのテーブルや座席、ソファの配置等に配慮している。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた品を持ち込んでもらったり、仏壇を配置したり、一緒に考えながら新しい品を購入したりして自分のスペースを作っている。	慣れ親しんだ家具やカレンダーや自作した作品を飾ったりすることで居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ手すりや浴室、トイレ等住環境が適しているか随時見直し、安全確保と自立への配慮をしている。	目印をつけたり、夜間は居室でポータブルトイレ使用できるようにしたり、必要な声かけ、誘導を随時行っている。	